

自分らしく考え、生きるとは

「自分の考えたとおりに生きなければならない。そうでないと、自分が生きたとおりに考えてしまう。」
ポール・ブルジェ

今月の理事長ブログを始めるにあたり、今年1年の関係各位のご支援、ご協力、ご尽力等に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、冒頭の一節ですが、フランスの批評家、作家、ポール・ブルジェ(Paul Bourget、1852年9月2日-1935年12月25日)の簡潔ながら含蓄のある箴言です。ある面で動物的本能をなくした我々ホモサピエンスは、社会の中で、日々の生活を習慣的に営むことで、安定した生活や精神状態を保つことができるとも考えられます。ところが、こうした習慣などに捉われて、自分の考えや自分らしさが失われていないか、ブルジェは、そんなことを我々に投げかけているのではないかでしょうか。

一方、習慣等に流されず、自分の考えたとおりに生きるために、実際に何をどうすればいいのかは難しいところです。各自が、試行錯誤を繰り返しながら、探求していくことになろうかと思いますが、僭越ながら、私なりの方法を参考にお話ししたいと思います。

まずは、「違和感と向き合う」ということです。皆さんも日常の生活で、家庭のこと、子供の学校のこと、仕事のこと、人との交際のことなどで何となく違和感を覚えることがあると思います。こうした違和感については、忙しさ等にかまけてついなおざりにしがちですが、それは、何らかの「心のサイン」かもしれません。もし自分が今まで当たり前だと思っていたことなどについて、ふと違和感を覚えたら、時には立ち止まって、そのことに向き合い、自分なりに考えてみることは、とても大事なことだと思います。

次に、「他者と交流する」ということです。何かに違和感を覚えたとしても、自分の思い込みや見当違いということもあります。人は、社会という場で、他者との関係性の中で生きているので、自分の違和感を言語化し、他者と交流を図ることで、自らの考えを補正したり、さらに深めたりして、より確かなものにしていくことができます。

今まで述べたことは、仕事においても活かせます。仕事をする上においては、規則やマニュアルなどのルールに従って行なうことが基本です。しかし、激しく変化する現代社会においては、今までのルールが、実情に合わなくなってくる事態も想定されます。仮に仕事のやり方等で何か違和感を覚えたなら、そんな時は声をあげて、職場で議論をすることが大事で、こうしたことは、仕事に対するやりがいだけでなく、職場の活性化という観点からも大変意義があることだと思います。ただし、職場のコンセンサスを得ずには勝手にルールを変更するようなことは、組織の一員として厳に慎む必要があります。

最後に、自分の考えたとおりに生きることに関し、最近気になることがあります。それは、生成AIの今後の進展です。AIは、膨大なデータ処理等だけでなく、その活用等まで行えるようになるので、現在、著作権の侵害や偽情報の拡散など様々な懸念が指摘されています。こうしたことに加え、その便利さに慣れてしまった我々は、今後自ら考えることをますます行わなくなるのではないか、ふとそんな危惧も抱いています。これからAIの世界を生きる我々は、新たな意味で「自分の考えたとおりに生きなければならない」時代を、今まさに迎えようとしているのではないかでしょうか。

(敬称略)

令和5(2023)年12月



一般財団法人 かながわ水・エネルギーサービス
理 事 長 松 井 聰 明